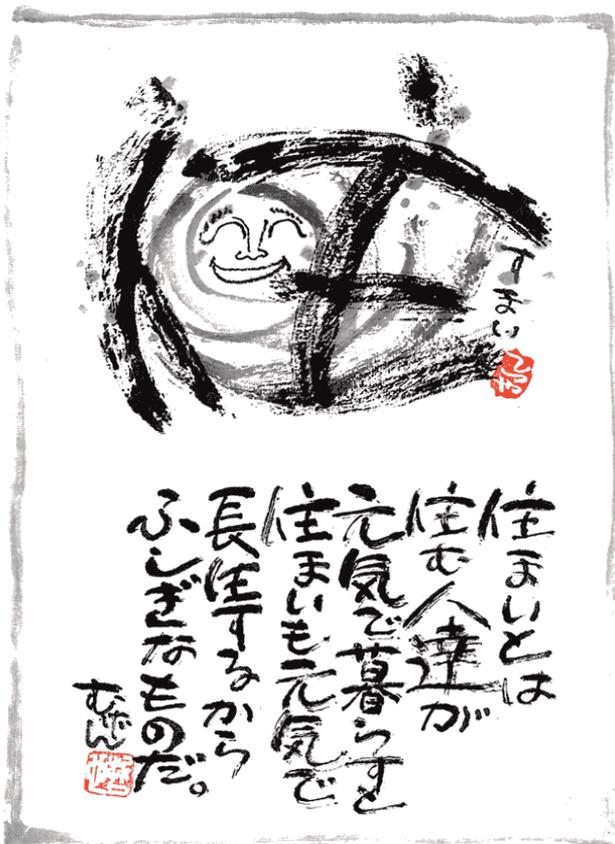


住まいづくりは幸せづくり

今月の写真



ひとりごと

ニュースレター woody-akiba



皆様、以前一度見たことがあるあの・・・目を疑う光景が、再び目の前にあったのです。とっさにハンドルを放してすぐデジカメに持ち替えました。

50メートル前方、ホンダカブの後部に乗っているのは間違いなく「犬」です。しっかりと腰を下ろして微動だにしない勇姿。バイクを運転するおじさんもすばらしいテクニックをみせ、安定した走りをしています。路面に直立した姿勢で走行しバイクを傾けることはありません。右や左にわずかでも移動する際は後続車に手信号で知らせることができます。このバイクを見つけてから追走すること約500m、この一人+一匹乗りのバイクはホームセンターに入っていました。



手前ボーリング場前でズームアップしてこのショットを撮影。できるぞ!

やればできるぞ!
がんばれ!!
防犯犬
「紅小町」

私はとても勇気付けられた気持ちになりました。

匝瑳市国道126号線にて(それにしても背中中のゼッケンは何なのだろう・・・)

暑中お見舞い申し上げます



表紙「ひとりごと」の続き

すっかり紅小町君に表紙を奪われてしまった格好です。あらためて私の「ひとりごと」を書かせてください。

岐阜県可児市というところにK・YAIRIというギター工房があります。完全国産・手づくり少量生産を貫いて名品を作り続ける知る人ぞ知る世界のヤイリです。30人の工房から生産されるギターは製作数も限られています。楽器店が注文したものが店頭をかざることはあっても欲しいギターとなるといつも納品待ちとなっていて、6ヶ月待ちなんていうこともざらにあるそうです。

先日、私はヤイリに修理の依頼をしました。1975年製作のYW500Pという品番で、今でもレギュラーリストに入っており生産されています。思い起こせば17歳の頃に東京・お茶の水の谷口楽器店で買い求めたものです。当時、ヤイリのギターのなかで唯一、高校生が貯めた小遣いで手が届く値段だったと記憶しています。

永久保証のギターとは・・



その後、16年後にブリッジの板がはがれたのですが、建具の職人さんに目立たないようにビスでとめてもらいそのまま使っていました。でもこのごろは、できれば修理したいと思うようになってきました。

ヤイリのギターは「永久保証」をモットーにしています。いい楽器を末永く使ってもらいたい、という考えからだそうです。リペアの担当の方に状態を書いたFAXを送ったところ、丁寧なお電話をいただき、すぐに私のギターは岐阜県へ向かって宅配便に乗ったのです。部材の代金だけで、可能な修理をしてくれるといううれしい対応です。ついペグ(糸巻きのことです)の交換も頼んでしまいました。生まれてから33年経ったギターが修理されてまた戻ってきます。新品の輝きはないけれど、弾きこまれたギターには新品には出ない音“鳴り”があります。

もともとは、アメリカ製のマーチンを模するところからスタートしたヤイリのギターづくりでしたが、本家よりもマーチンらしいという評価になり、オリジナリティーを追求した結果いまの揺るぎない評価につながっています。

小さなギター工房Kヤイリのファンの一として、同時に自分もいつしかこのようにお客から信頼される存在になりたい念願しています。遠い目標ですが地道に手づくりの住まいづくりを続けていきたいと考えています。

最後までお読みいただきありがとうございました。
(平成20年7月25日)

発行者 秋葉建設株式会社 秋葉 忠夫
〒289-2163 千葉県匝瑳(そうさ)市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
URL <http://www.woody-akiba.com>
Email master@woody-akiba.com